

英語教育改善プラン推進事業

第3回 ワーキンググループ(小学校部会)

Today's schedule

1 事務局より

①今年度の成果と課題について

- ・授業実践の振り返り
- ・パフォーマンステストの実施を終えて
- ・各校の振り返りシートのまとめ

②次年度に向けて

2 指導助言(信州大学 酒井英樹 教授)

3 諸連絡 ※分科会終了後、全体会を実施

Yamanashi Model 構築

～「話すこと [やり取り]」を中心とした発信力向上を目指して～



February 24th, 2022

14:30~15:40

(Zoom受付 14:00~)

義務教育課 早川優子



事業目的

小・中・高等学校を通じて、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる英語による発信力を向上させるために、実際の目的・場面・状況に応じた英語を活用する課題（パフォーマンス課題）を設定し、指導・評価するモデルを構築する。



事業のポイント

・発信力の向上

話すこと（やり取り）→既習事項を使った即興的なやり取りを継続。

・実際の目的・場面・状況に応じて英語を活用→言語活動の設定

学習評価における「思考・判断・表現」の観点と大きく関わる。

・パフォーマンス評価

何ができて、何ができないかを、児童生徒に気づかせ、共有し、次のパフォーマンスで改善することを目指し、自己調整を繰り返し行っていく。

CAN-DOリスト

振り返りシート

ルーブリック

小・中・高連携

Yamanashi Model 構築

～ 「話すこと [やり取り] 」を中心とした発信力向上を目指して～

I 話すこと [やり取り] (スモールトーク)

II 言語活動

Yamanashi Model
3本の矢

III 「パフォーマンス評価 (言語活動での中間指導)」

CAN-DOリスト

ルーブリック

Yamanashi Model
支える要素

小・中・高連携

振り返りシート

...

①今年度の成果と課題について

R3年度 授業実践一覧				民間撮影 動画配信 (3月)	Zoom 配信	実践単元 単元の最終パフォーマンス課題
1	9/13 (月)	葦崎小	4年 矢巻 利之			Do you have a pen? 友達にオリジナルの文房具セットをつくって贈ろう！
2	10/20 (水)	睦合小	3年 渡辺公太郎			This is for you. 運動会でがんばった友達に、ありがとうの気持ちを込めて、グリーティングカードを贈ろう。
3	10/26 (火)	葦崎小	6年 佐藤 岳 ～言語活動を意識した授業づくり～	○	○	This is my town. 新しく来たALTのサミー先生に、葦崎市にあるもの、あったらいいなと思うものについて、自分の考えや気持ちを伝え合おう。
4	10/27 (水)	小立小	4年 横小路 聡		○	Do you have a pen? 友達のために、おすすめの文房具セットをつくろう。
5	11/10 (水)	小立小	6年 齋藤 遼馬		○	Let's think about our food. やり取りをしながら、オリジナルカレーの良さを伝え合おう。
6	11/24 (水)	加納岩小	5年 小池 美樹			He can run fast. She can do kendama. クラスの友達が驚くような、友達の意外な一面を紹介しよう。
7	11/25 (木)	常永小	3年 渡邊 皓 ～即興的にやり取りをする力を高める授業づくり～	○		What's this? イングリッシュクイズに挑戦！
8		常永小	6年 小澤 宏成 ～丁寧な指導ステップを踏んだ「話すこと [やり取り]」に関する指導～	○		Let's think about our food. 和食マイスターとして、ALTに「おすすめの和食」を伝えるために、考えたメニューについて、自分の考えや気持ちを伝え合う。
9	12/13 (月)	睦合小	6年 加藤 翔		○	My best memory. 小学校生活のいちばんの思い出について、お家の人に思いを込めて発表しよう。
10	1/26 (水)	丹波小	5年 竹川 寛			Welcome to Japan. オーストラリアに住むALTの弟のMorneさんに興味をもってもらえうように工夫しながら、お互いの国のおすすめの文化を伝え合う。

R4.2.10（木）指導重点説明会にて配付

山梨県英語教育改善プラン推進事業

2つの資料を公開・共有します。共に学びましょう。

- ①研究指定校による提案授業動画
- ②研究指定校による提案授業学習指導案等

3月上旬
配信予定

話すこと [やり取り]	言語活動の 充実	パフォーマンス 評価
----------------	-------------	---------------

- ◆提案授業動画に関する情報（YouTube限定公開URL等）は、市町村（組合）教育委員会を通じてお知らせします。（3月上旬）
- ◆提案授業学習指導案等は、グループウェアキャビネットからダウンロードできます。（3月上旬）
「山梨県教育庁義務教育課＞英語教育改善プラン推進事業＞学習指導案等」
未導入市は、ピーチウェアからダウンロードしてください。
- ◆動画にかかわる情報の取扱いには十分に気を付けるなど、授業を提供して下さる研究指定校への配慮をお願いします。



英語教育改善プラン推進事業 提案授業①

～言語活動を意識した授業づくり～



2021年10月26日
蕪崎小学校

ALT : Sammy 先生 JTE : 佐藤 先生 HRT : 仁科 先生



柱1：話すこと [やり取り]

成果

【SmallTalk】

- ・ SmallTalkに継続的に取り組むことにより、対話を続けるため基本的な表現の定着が図られ、単元の言語活動にもつながった。

【場面設定】

- ・ 明確な場面設定を行うことにより、即興で会話の内容を考えたり、会話を継続させたりする姿が見られるようになった。

【聞くこととの関連】

- ・ 教師のデモンストレーションを通して、児童同士のやり取りにおいても、相手の話を聞いて、相づちを打ったり、聞き返したり、くり返したりすることができるようになってきた。

【中間指導】

- ・ 児童同士の会話を全体で確認することを通して、ジェスチャーや声量、話す速度、アイコンタクトなどの会話におけるポイントだけでなく、ねらいに即した内容や、評価規準にAに迫る内容を聞き、会話の質を向上させる指導へとつなげることができた。
- ・ 中間指導で、録画した動画を共有することで、児童自身の気づき、主体的な学習改善につながった。
- ・ 中間指導において、会話を続ける方法を考えたり、英語で言いたいことを確認したりすることで、少しずつではあるが、会話を続けたり、反応したりすることができていた。

柱Ⅰ：話すこと [やり取り]

工夫・意識したところ

- ・ 児童数が少ないために、職員室の先生方を巻き込んで、やり取りの活動を行った。
- ・ 緊張を緩和し、活動に取り組みやすいように机の配置などを換代えて、授業を行った。例えば、黒板の代わりに、小さいホワイトボードを児童の近くに置いて使用したり、机を隣り合わせにして、いつでも助け合えるようにしたりなどの配慮を行った。
- ・ 外国語活動の段階から、相づち、褒める言葉、挨拶など、どのテーマでも使えるような表現を少しずつ継続して指導していく。
- ・ 中間指導をより効果的に行うためには、全体の前で紹介するペアの選別に留意した。授業者やALT、学級担任の全てがクラス全体の会話を把握し、どのペアを選出すべきかを判断し、紹介した。そうすることで、クラス全体が、目指すべき姿を再確認し、自身の対話につなげることができた。
- ・ 指導書に示される各單元における中心領域の他に、すべての單元で「話すこと [やり取り]」に力点を置いて指導し、授業改善に取り組むように心がけた。
- ・ 即興的なやり取りにつなげるために、カードを用いる等、授業に工夫を凝らした。

柱Ⅰ：話すこと [やり取り]

課題

【SmallTalk】

- ・ 中学校とのつながりも考え、JTE-ALT →JTE—Student(s)・ALT—Student(s) →Student(s)—Student(s)と広げていけるように、継続的な取組が必要である。

【聞くこととの関連】

- ・ 会話の内容に合ったリアクションを取ることは課題。
- ・ 指導者からの簡単な質問に即興的に応じることはできるが、相手の話を聞き、その内容を踏まえて自分が話したり、より詳しい内容を聞き出すために質問を返したりするやり取りは難しい。そのため、やり取りを通して、お互いが考えや気持ちを伝え合うまでの会話の深まりが現時点では見られない。

【中間指導】

- ・ 中間指導でどの程度教師がサポートするかが難しい。人数が少ないと教師の介入が多くなり、児童が教師の力を借りずに、自分で考えて話す機会が少なくなってしまった。
- ・ 即興的な会話を継続的に行うことができてきたが、「What ○○ do you like?」「I like ○○.」の表現が多用されている様子が見られた。これまでに学習した文法をさらに用い、幅広くより深みのある会話をめざしていきたい。そのためには、授業者や学級担任が指導する際、児童にそのことを気づかせるなど、指導の工夫が必要である。

【その他】

- ・ 即興的なやり取りは個人差が大きい。塾など学校外での英語使用経験や、個人的な性格の差も影響する。英語に対する恐怖心やコンプレックスを感じやすい活動であることを念頭に、配慮ある活動を仕組む必要がある。

柱2：言語活動の充実

成果

【目的・場面・状況を意識した言語活動の設定】

- ・ 単元終末のパフォーマンス課題の工夫
- ・ 日常の授業における工夫（ex. 店員役になって職員室の先生方に丁寧に食べ物注文を取ったりする活動）
- ・ 目的・場面・状況を単元の第1時で明らかにした上で、児童の言語活動を仕組んだ。最終パフォーマンスでは、「誰に対して」「誰のために」という相手意識が明確な発話が多く見られた。
- ・ 単元の最初にデモンストレーションなどで提示することで、活動の見通しをもたせるとともに、活動の意義を意識させることにもつながり、児童の意欲が高まった。
- ・ 明確な場面設定を行うことで、教師の評価もしやすくなることが分かった。
- ・ 「何のために」「どのような状況で」行うかを、児童が理解し、言語活動を行うことで、適切な英文を選出し、表現することにつながってきた。

【教科書の活用】

- ・ 新出表現の確認の際に、ただリピートさせるだけでなく、今まで習った表現を使って、児童に質問をすることで、英語でやり取りする場面を多く持つことができた。知識の定着だけでなく、児童から新出表現を活用して、会話を行おうとする様子も見られた。
がついてきた。

柱2：言語活動の充実

成果

【ICT端末の活用】

- ・自分が言いたいことを各自が容易に調べることができるようになり、自身の表現活動に意欲的に取り組む児童が増えた。
- ・児童同士のやり取りをICT端末で録画することで、自分のパフォーマンスを確認したり、他のクラスと交流したり、教員の評価に活用したりすることができた。
- ・ペアでの会話の様子を録画し、仲間と共有することで、全体の会話の質を高めることができた。また、自分の良い部分を確認するとともに、改善点を自分自身で考え、次の言語活動に生かす姿も見られた。

- ・言語活動をより充実させるために、

ICT端末のカメラ機能を使ったアルファベット探し

Googleスライドを活用したクイズ大会

発表資料の作成

インフォメーションギャップや画像送付

- ・Chromebookを活用してプレゼンをすることで児童のICTリテラシーも高まり、またこれまで多くの時間を割いてきた説明用イラストを描かせる作業も、webから素材を取り入れることで大幅な時短と、より相手に伝わりやすい提示資料を児童自身が作成できるようになった。

【児童への声かけ】

- ・外国語活動においては、自分の思いを伝えようとするとき、「日本語でもいいよ。」と児童に伝えていたので、自分の思いを伝えようとする気持ちがついてきた。

柱2：言語活動の充実

工夫・意識したところ

- ・ Zoomを活用して、海外に住むALTの弟と交流するなど、本物のやり取りを行う機会を設けた。
- ・ 難しい表現もICT端末から得られるが、聞き手を意識して、既習語句や表現を使って伝える意識を促した。
- ・ 授業設計の際には、単元の目標から児童の目指すべき姿を具体化し、毎時間言語活動を実施した。
- ・ 目的・必然性を確立するため、「総合的な学習」と合科的指導を行った。

柱2：言語活動の充実

課題

【思考・判断・表現と係わって】

- ・言語活動は毎時間実施したが、最終パフォーマンスでの知識・技能の達成を意識するがあまり、話型や語彙の指導に力点が置かれ、それらを活用し、児童自身が深く思考・判断して表現する活動の場を十分に確保できなかった。
- ・言語活動の高まりに連れ、ある程度、思考力や判断力、表現力が高い児童は良いが、力が定着しにくい児童に関しての対応が特に必要である。より良い会話を見聞きしたり、自分の会話を振り返ったりすることで力はつけてはいるが、スムーズに会話が出てこない場面も見られる。相手が会話をうまく続けること、TTを利用した指導などを行っているが、児童の不安につながらないように留意し、指導していく必要がある。
- ・思考力や表現力を伸ばすことが難しいと感じた。日頃から、既習表現を繰り返し使用することを意識して、帯活動（SmallTalk）のやり方を工夫していく必要がある。

【言語活動の設定について】

- ・教材研究をして、目的・場面・状況を意識した言語活動を考えたり、準備物を用意したりするなどの時間の確保が難しい。

【指導体制の充実】

- ・英語支援員、ALTとの連携が課題。

【ICT端末の活用】

- ・教師も児童も機器の扱いに慣れていないと、入力や操作に時間がかかり、言語活動を行う時間が減ってしまう。

柱3：パフォーマンス評価

成果

【信頼性・妥当性のある評価】

- ・ 児童の実態に応じて、評価基準を細かく設定することで、迷うことなく評価をすることができた。児童とも共有することで、やることが明確になり、児童の意欲も引き上げることができた。
- ・ 研究授業を行った際には、参観した教員にもルーブリックを用いて評価をしてもらった。専科教員との評価と比較した結果、児童を評定した多数が同一の結果となり、高い信頼性が得られた。その要因としては、
 - ①授業を参観するに当たり、AとBの評価について、例文を用いながら事前に確認をしたこと
 - ②評価シートの文面にある「詳しく」や「十分な」という語を定義し、共通理解を図ったこと
 - ③授業者が児童に評価シートを提示した際、文章の内容について、児童に考えさせる場面を挿入し、参観者も評価内容についてともに考えたことがあげられる。
- ・ 同じ児童について評価者を変えて評価する経験を1学期、2学期に実践し、知識・技能面での評価において、ブレはほぼ見られなくなった。

【評価基準の作成にかかわって】

- ・ 評価基準の設定する際、特に「思考・判断・表現」については、児童の様子を思い浮かべながら作成している。パフォーマンス課題に沿いながら、どのような単語や文を用いて表現する必要があるのかを考え、目的をもって考えや気持ちを伝え合うための基準を設定している。
- ・ 評価規準に基づき、想定する児童の姿を具体的なセンテンスで共有した。その際に、児童の実態を良く理解している担任の意見を取り入れることで、より実態に即したルーブリックの設定が可能となった。

柱3：パフォーマンス評価

【振り返りシート】

- ・振り返りシートの作成を行うことで、教師自身が見通しをもって授業を組み立てることができ、バックワードデザインにもつながることが分かった。また、児童の理解度やつまずきを見つけやすく、指導改善にもつながった。

【CAN-DOリストとの関連】

- ・CAN-DOリストに基づく単元目標、パフォーマンス課題の設定、評価規準、評価基準の作成を進めることができた。
- ・CAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題を設定することで、最終的に児童につけたい力を意識して授業に臨むことができた。

【教師の見取り・ALTとの連携】

- ・教師が外国語活動及び外国語科の評価を行った経験が乏しく、不安もあったが、実際にやってみると極端に難しいということはなく、経験によってその不安は払拭されることが分かった。
- ・ALTに学習指導要領（英訳版）を一読してもらい、外国語活動・外国語の目標や言語活動や3観点の概略を理解してもらった。これにより、授業内での見取りもJTE, HRTと同等の精度で見とれているため、評価体制が効率化した。

柱3：パフォーマンス評価

工夫・意識したところ

- ・ 授業者が児童にルーブリックを提示した際、「『詳しく』とはどういう会話を意味するか。」など、児童に考えさせる場面を挿入することで、評価Aとなる規準を示すことができた。指導者から評価規準を提示するだけでなく、「どうすればAとなるのか」ということを自分自身で考えさせることで、規準を具体的に捉えやすくさせるとともに、意欲向上にもつなげることができた。
- ・ 指導書のみならず、学習指導要領やCAN-DOリストに基づき、パフォーマンス課題を設定した。JTEの他ALTや担任の意見も取り入れて設定することで評価者によるブレを最小限にとどめるよう配慮した。
- ・ おおまかな評価基準（ルーブリック）の設定を事前にしたので、判断が難しい場合を想定して相談・確認して授業に臨めた（やりながら変わることはあった）。
- ・ 評価基準や規準を児童と共有することで、児童がパフォーマンスを行うときに目的意識をもって行えるように、また自分自身で結果をふりかえることができるようにした。
- ・ 毎回の授業に最初に、その単元でのパフォーマンス課題をJTEとALTで見せて、子どもたちに単元の見通しを持たせた。

柱3：パフォーマンス評価

課題

【信頼性・妥当性のある評価】

- ・ ルーブリックの設定が難しい。特に思考・判断・表現については、様々な例が考えられ、評価者が多いと信頼性・妥当性が揺らぐ。高学年では15項目の評価があるが、他の教科のように毎単元学習内容が定着しているかが気になり（知識・技能面）、評価基準が複数項目に渡ることがあった。年間を通してどの単元で何を見取るかという視点が欠けていた。
- ・ b基準の設定が難しい。
- ・ 評価基準AとBとの明確な線引きが難しく、センテンスの数で機械的に分けたりしたが妥当性に疑問を感じた。誰でもが簡単に評価できる様ルーブリックを詳細に設定しても、瞬時に評価することが難しい場面があり、評価シート内に児童の発話メモを残し、後日再検討する方法をとった。
- ・ やり取りにおける「思考・判断・表現」の評価に関し、評価シートの妥当性や、授業内で評価内容の確認を児童と行うことの有効性が実証された。ただ、児童本人の、「今回のやり取りでは、どれくらいできたのか」という自己評価を照らし合わせることが、より重要と考えられる。パフォーマンスシートにおける指導者の「総合評価」や「コメント」はもちろん、端末で録画した自分の会話を視聴するなどし、思考・判断・表現においての「自己評価」を行うことも取り入れていきたい。すでに行っている「Reflection Sheet（振り返りカード）」とも合わせ、次につながる評価をさらに高めていきたい。

柱3：パフォーマンス評価

【児童との共有】

- ・児童に向けて、評価基準を共有しようと心がけているが、できていない。

【教師の見取り・ALTとの連携】

- ・ALTと評価の細かな基準を確認するのが難しいと感じた。可能であればALTと相談しながら評価の基準を設定できるとよいと思う。

【評価方法・実施時期】

- ・3観点同時に評価するのは厳しい。ポイントを絞ったり、観点を絞ったりして評価してきたい。
- ・ルーズブリックを細かく設定した評価シートを共有すると、児童の短時間でのパフォーマンスの最中に評価が仕切れないし、目を離さず観とることができない。録画して後からじっくり評価することもあったが、大勢の児童を受け持っている場合、時間的な負担が大きすぎるという課題があった。
- ・すべての単元では細かく作成できなかったため、来年度継続して研究を行いたい。

【CAN-DOリストとの関連】

- ・CAN-DOリストを、児童の実態に合わせて活用することが十分できなかった。

2学期末に行うパフォーマンス課題例

実施対象：第5学年

山梨県版CAN-DOリスト **話すこと[やり取り]**

ウ 自分や相手のこと、身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができる。

5年生：関連性が薄くても、質問したり、答えたりできればよい。

6年生：関連した質問をして会話を継続させる。

→6年生CAN-DOリスト 継続して伝え合うことができる。

話すこと[発表]

- ・伝える内容の整理
- ・話す順番の工夫

話すこと[やり取り]

- ・即興性、相手意識

パフォーマンス課題例

ALTとやり取りをする必然性を意識して作成しました。一人ずつALTと1分間くらいのパフォーマンステストを行うイメージです。

ALTの先生は、コロナが収束したあと、日本（山梨）で旅行をしたいと考えています。ALTの先生と〇分間、英語でやり取りをして、ALTの先生にぴったりの山梨県（日本）の場所を決めてください。

ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	単元で学習した〇〇やその他既習表現を用いて、あやまりのない英文で、ALTにぴったりの場所についてやり取りすることができる。	ALTにぴったりの場所を決めるために、その場で、自ら質問をしてALTの情報を得たり、ALTからの質問に答えたりしている。	ALTにぴったりの場所を決めるために、その場で、自ら質問をしてALTの情報を得たり、ALTからの質問に答えたりしようとしている。
B	あやまりが一部あるが、単元で学習した〇〇を用いて、コミュニケーションに支障のない程度の英文で、ALTにぴったりの場所についてやり取りすることができる。	ALTにぴったりの場所を決めるために、ALTの助けを借りながら、その場で、質問をしたり、質問に答えたりしている。	ALTにぴったりの場所を決めるために、ALTの助けを借りながら、その場で、質問をしたり、質問に答えたりしようとしている。
C	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

想定されるパフォーマンス【思考・判断・表現A】

A : Hello.

S : Hello, ○○sensei.

A : I want to travel (/go somewhere) in Yamanashi (after corona).

S : Where do you want to go? ※2学期の言語材料を想定

A : Sorry, I have no idea (plan).

S : I see. Do you like sports? ※ALTにぴったりの場所を決めるために自ら質問

A : Very much. I play soccer.

S : Oh, me, too. Kose Park is nice . You can watch soccer games. ※ALTにぴったりの理由

A : That's nice. I want to go to Kose Park, Thank you, △△.

想定されるパフォーマンス【思考・判断・表現B】

A : Hello.

S : Hello, ○○sensei.

A : I want to travel (/go somewhere) in Yamanashi (after corona).

S : Where do you want to go? ※2学期の言語材料を想定

A : Sorry, I have no idea (plan).

S : Kose Park is nice.

A : Why? ※ALTの助け

S : You play soccer. (/You're good at playing soccer.) ※相手にぴったりの理由

A : Oh, great.

S : Your position? ※質問はしているが、相手にぴったりの場所にはつながらない

A : GK. Thank you, △△.

想定されるパフォーマンス【思考・判断・表現C】

A : Hello.

S : Hello, ○○sensei.

A : I want to travel (/go somewhere) in Yamanashi (after corona),

S : Where do you want to go? ※2学期の言語材料を想定

A : Sorry, I have no idea (plan).

S : Kose Park is nice. ※自分の思い

A : Why?

S : I play soccer. ※自分の思い

A : Oh, nice. I like playing soccer, too. Thank you, △△.

各指定校での実践の様子（対象学年：5年生）



【加納岩小学校】

ALTのザネ先生は、コロナが終息した後、日本国内を旅行したいと考えています。ALTの先生と1分間、英語でやり取りをして、ザネル先生にピッタリの場所を伝えてください。

パフォーマンス後の修正したルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<p>既習表現を用いて、あやまりのない英文で ALT にぴったりの場所について、やり取りすることができる。</p> <p>Where do you want to go? Yes, I do. I' m happy. など フルセンテンスで答えている。</p>	<p>ALT にぴったりの場所を決めるために、その場で、自ら質問をして ALT の情報を得て、おすすめの場所を提案したり、ALT からの質問に答えたりしている。</p> <p>おすすめの場所が言えて、自分から質問ができています。</p>	<p>ALT にぴったりの場所を決めるために、その場で、自ら質問をして ALT の情報を得て、おすすめの場所を提案したり、ALT からの質問に答えたりしようとしている。</p> <p>学習した英語を使い、ALT と楽しんで会話しようとしている。</p>
B	<p>あやまりが一部あるが、コミュニケーションに支障のない英文で ALT にぴったりの場所についてやり取りをすることができる。</p> <p>Happy. Yes. など単語で返答している。</p>	<p>ALT にぴったりのおすすめの場所を提案したり、ALT 質問に答えたりしている。</p> <p>おすすめの場所が言えて、ALT と会話ができている。</p>	<p>ALT にぴったりのおすすめの場所を提案したり、ALT 質問に答えたりしようとしている。</p> <p>学習した英語を考えながら使おうとしたり、ALT と楽しんで会話をしようとしている。</p>
C	<p>B を満たしていない。</p> <p>全て英語で答えている。</p>	<p>B を満たしていない。</p> <p>コミュニケーションのポイントが意識できていない。(視線、表情など)</p>	<p>B を満たしていない。</p> <p>使える英語を使わず、すべて日本語で会話したり、会話を続けようとしたりしていない。</p>

【小立小学校】

新しいALTの先生がやってきました。山梨県に住むのは初めてです。週末にちょっと近場にお出かけしたいと考えています。河口湖近辺のおすすめの場所を紹介してください。

*児童は、事前に、富士河口湖町近辺の「Restaurant」「Tourist spots」「Activities/Sports」「Resorts」の4つについてタブレットを使って調べ学習をしています。

ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	習った表現を用いて、文型的にあやまりのない英文で、ALTに適切な場所を紹介する自然なやり取りができる。	ALTの意向を確認するための質問を入れながら提案をし、相手にとって適切な場所を紹介するやり取りをしている。	ALTの意向を確認するための質問を入れながら提案をし、相手にとって適切な場所を紹介するやり取りを積極的にしようとしている。
B	習った表現を用いて、あやまりがあっても伝わる程度の英文で、ALTに適切な場所を紹介するやり取りができる。	自ら提案しつつ、ALTの助けを借りながら質問に答えたり質問したりし、適切な場所を紹介するやり取りをしている。	自ら提案しつつ、ALTの助けを借りながら質問に答えたり質問したりし、適切な場所を紹介するやり取りをしようとしている。
C	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。

小立小A①・・・A A A

ジェスチャーを交えてコミュニケーションをしている。

「OK」とあいづちをうっている。

発音がはっきりしている。

教師の質問にも反応していた。

教師を見ながら会話をする事ができた。

小立小A②・・・A A A

うなずきながらコミュニケーションをしている。

「I see.」と言ったり、「tourist spot?」と聞き返したりしている。

教師の質問にも反応していた。

教師を見ながら会話をする事ができた。

小立小A③・・・A A A

「activity?」と聞き返したり、「OK」とあいづちをうったりしている。

教師の質問にも反応していた。

会話が継続している。

小立小B④・・・B B B

定型文は言うことができた。

誘導されてやっと答えることができた。

「curry」と単語のみで答えている。

小立小B⑤・・・B B B

「resorts?」と聞き返すことはできた。

何ができる?の問いに対して、富士吉田にあると答えている。

小立小C⑥・・・C B C

「tourist spot」が分からない。

教師に誘導されても、なかなか答えることができない。

目線が下。

小立小C⑦・・・C B C

声が小さい。

「Lake」が分からず、つまってしまう。

教師が誘導して、何とか言うことができた。

【睦合小学校】

カーリーシャ先生は、日本に来て初めての冬休みになり、コロナが大丈夫であったらどこかに旅行に行きたいそうです。あなたがおすすめる場所を考えて、カーリーシャ先生にその場所を紹介しましょう。

ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	単元で学習した「Where do you want to go?」「You can～.」やその他の既習表現を使って、あやまりのない英文で、ALTに自分のおすすめる場所についてやり取りすることができる。	ALTにおすすめる場所を紹介するために、その場で、自ら質問をしてALTの情報を得たり、ALTからの質問に答えたりしている。	ALTにおすすめる場所を紹介するために、その場で、自ら質問をしてALTの情報を得たり、ALTからの質問に答えたりしようとしている。
B	あやまりが一部あるが、単元で学習した「Where do you want to go?」「You can～.」を用いて、コミュニケーションに支障のない程度の英文で、ALTに自分のおすすめる場所についてやり取りすることができる。	ALTにおすすめる場所を紹介するために、ALTの助けを借りながら、その場で質問したり、質問に答えたりしている。	ALTにおすすめる場所を紹介するために、ALTの助けを借りながら、その場で質問したり、質問に答えたりしようとしている。
C	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。

評価

(二重線=本単元の言語材料 波線=既習表現)

○児童 A-1 の発表

A: Hello !

S: Hello Kalisha sensei !

A: I want to travel in Japan.

S: What .. Where do you want to go ? Do you like sightseeing?

A: No I don't. I don't like sightseeing.

S: I see. Do you like Japanese food ?

A: Yes, I like Japanese food.

S: Parfait is nice ! (えー) Harajuku is nice.

A: Why ?

S: You can eat Parfait.

A: Oh nice. Thank you. See you.

S: Bye.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	a	a

知・技: 既習表現を言い間違えたが, 自分で気づき自己修正をして正しい表現で伝えていた。

思・判・表: 「Do you like～」の表現を用いて, 相手に自分から質問していた。

児童 A-2の発表

A: Hello !

S: Hello Kalisha sensei !

A: I want to travel in Japan.

S: Where do you want to go ? Do you like travel?

A: No I don't. I don't like travel.

S: I see. Do you like Japanese food ?

A: Yes, I like Japanese food.

S: Nanbuji is nice.

A: Why ?

S: You can eat ……You can eat Karaage.(指でテレビの画像を指し示す)

A: Oh nice. Thank you. See you.

S: See you.

A: Good job!

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	a	a

知・技: 言語材料も既習表現を言い間違えなくやり取りができていた。

思・判・表: 「Do you like～」の表現を用いて、相手に自分から質問していた。

児童 B の発表

A: Hello !

S: Hello Kalisha sensei !

A: I want to travel in Japan.

S: Do you want to go ? : you... Do you like Japanese food?

A: Yes, I like Japanese food.

S: Osaka is nice.

A: Why ?

S: ... You can eat (ALT のジェスチャーを見て) eat Takoyaki.

A: Oh nice. Thank you.

S: (指でテレビの画像を指し示す)

A: Oh nice. Thank you. See you.

S: See you.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	b	b

知・技::Where do you want to go ?の表現は言い間違えたが、コミュニケーションに支障なく継続してやり取りができていた。

思・判・表:ALT の助けを借りながら質問したり質問に答えたりしていた。

児童 C の発表

A: Hello !

S: Hello Kalisha sensei !

A: I want to travel in Japan.

S: Where do you want to go ? Do you like Kyoto?

A: Yes, I like Kyoto.

S: Gojyunotou is nice.

A: Why ?

S: ええと …… You

A: 見るジェスチャーをする

S: You see

A: (小さな声で You can see)

S: You can see Gojyunotou.

A: Oh nice. Thank you. See you.

S: See you.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
c	b	b

知・技: Where do you want to go ? の表現は言えていたが, You can see を用いることができずコミュニケーションが途切れてしまっていた。

思・判・表: 自分では単語しか言えなかったが, ALT の助けを借りながら質問したり, 質問に答えたりしていた。

【葦崎小学校】

ALTの先生は山梨で旅行をしたいと考えています。ALTの先生と1～2分程度、英語でやり取りをして、ALTの先生にぴったりの山梨県の場所を決めてください。

ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	単元で学習した「Where do you want to go?」「You can～.」やその他の既習表現を使って、あやまりのない英文で、ALTに自分のおすすめする場所についてやり取りすることができる。	ALT におすすめの場所を紹介するために、その場で、自ら質問をしてALTの情報を得たり、ALTからの質問に答えたりしている。	ALT におすすめの場所を紹介するために、その場で、自ら質問をしてALTの情報を得たり、ALTからの質問に答えたりしようとしている。
B	あやまりが一部あるが、単元で学習した「Where do you want to go?」「You can～.」を用いて、コミュニケーションに支障のない程度の英文で、ALTに自分のおすすめする場所についてやり取りすることができる。	ALT におすすめの場所を紹介するために、ALTの助けを借りながら、その場で質問したり、質問に答えたりしている。	ALT におすすめの場所を紹介するために、ALTの助けを借りながら、その場で質問したり、質問に答えたりしようとしている。
C	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。

基本の文
B 評価

Hello, Summy sensei. Hello.

I want to travel in Yamanashi.

Oh, you want to travel in Yamanashi. I see.

Where do you want to go?

Sorry, I have no idea.

I see. I like (). Do you like ()?/What () do you like?

Yes, I do. I like ().

Oh, you like (). Me, too./That's great.

() is nice. You can (). You can (), too.

このように詳しく言う
A 評価

When do you want to go? That's nice.

I want to go in (季節).

Oh, you want to go in (季節). I see.

In (季節), you can ().

That's great.

Who do you want to go with?

With my family.

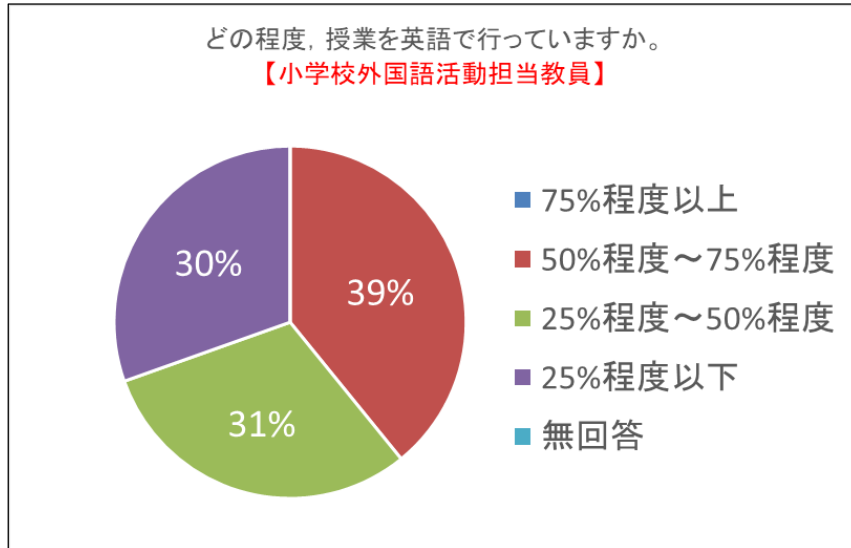
Oh, you want to go with your family. I see.

I want to go (). Thank you.

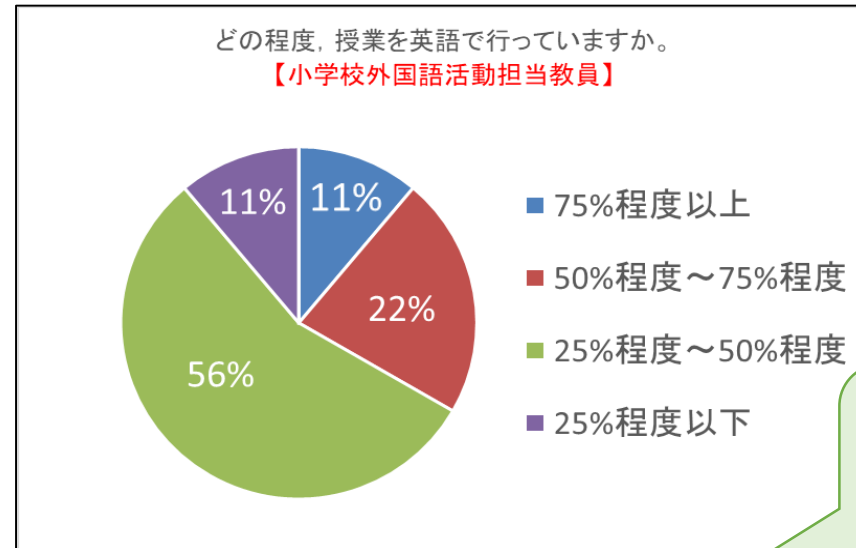
研究指定校のアンケートより

[I] 英語担当教師 ①英語使用量について

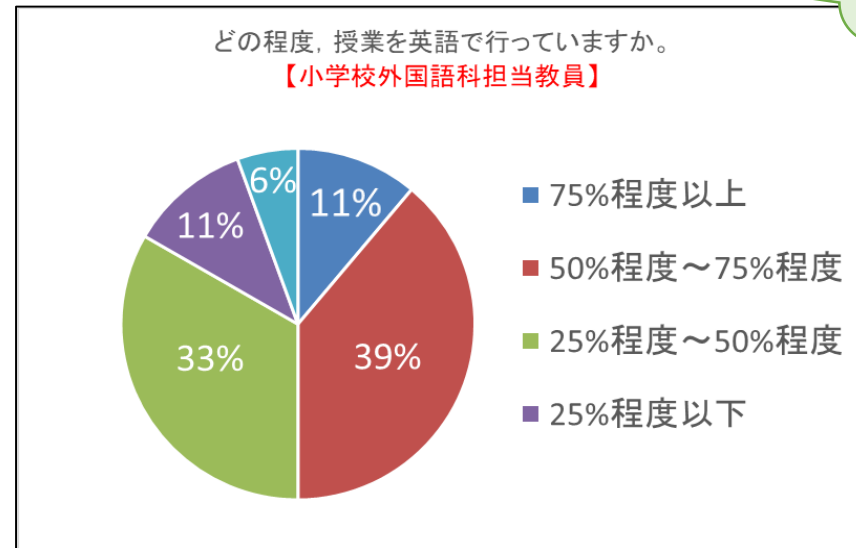
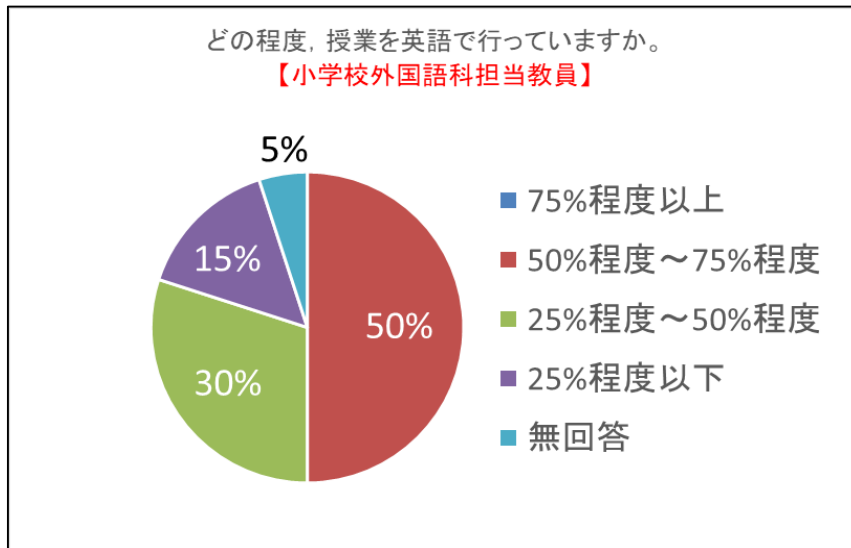
アンケート① (R3.5月実施)



アンケート② (R4.1月実施)



教師の英語使用量は微増。

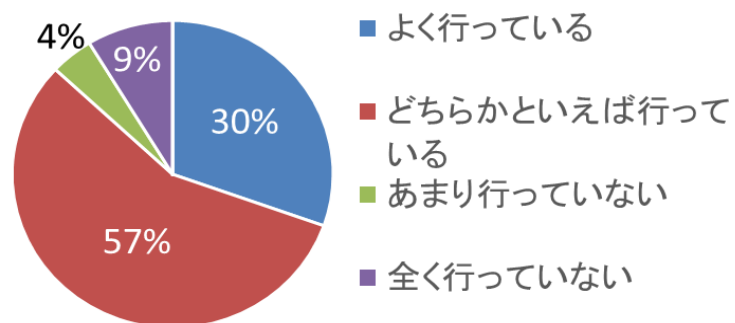


研究指定校のアンケートより

[1] 英語担当教師(小) ②やり取り・即興・言語活動について

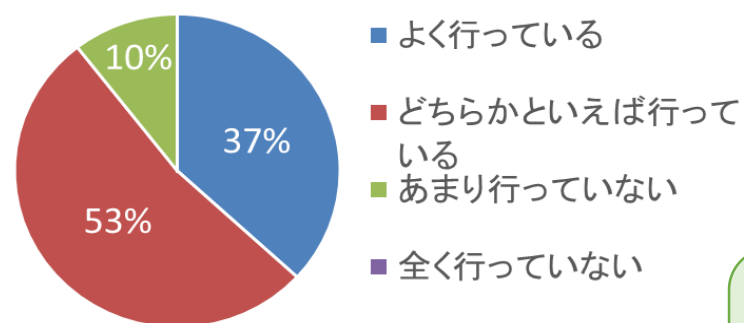
アンケート①(R3.5月実施)

授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を行っていますか。【小学校外国語活動担当教員】

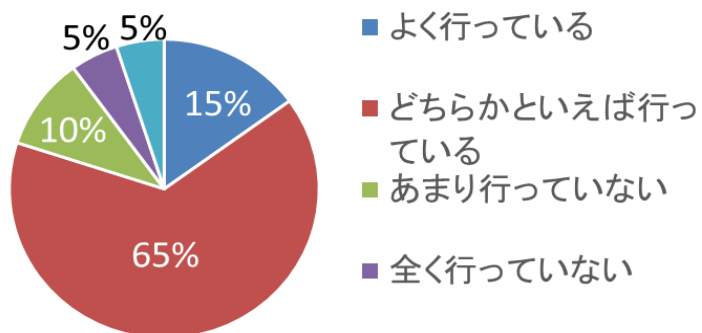


アンケート②(R4.1月実施)

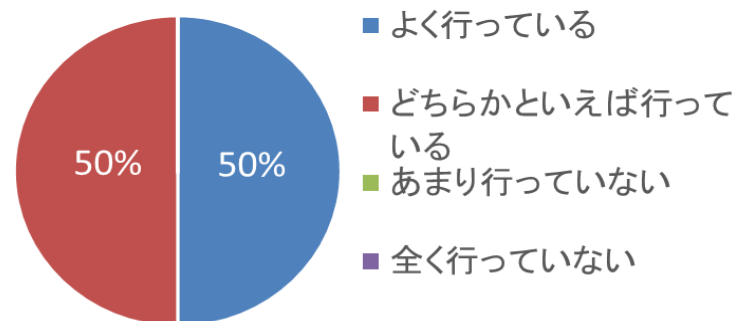
授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を行っていますか。【小学校外国語活動担当教員】



授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を行っていますか。【小学校外国語科担当教員】



授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を行っていますか。【小学校外国語科教員】



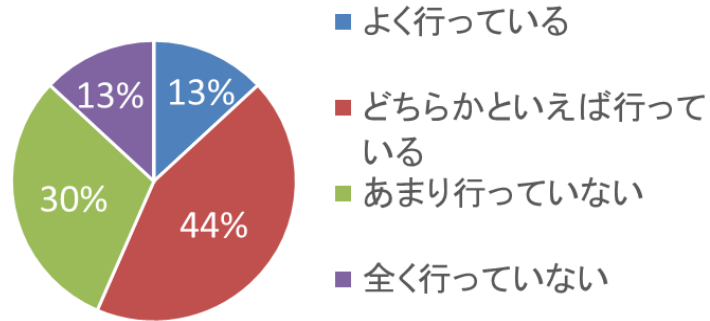
外国語科における言語活動の実施がUp↑

研究指定校のアンケートより

[I] 英語担当教師(小) ③CAN-DOリスト・指導と評価の一体化について

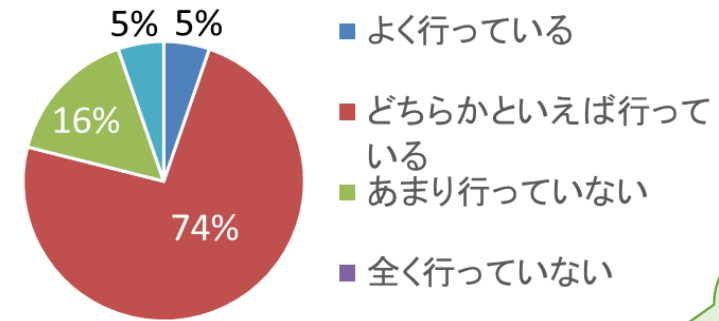
アンケート① (R3.5月実施)

Challengeリストに基づいて、単元の終末に、実際の目的や場面、状況等に応じて英語を活用する課題(パフォーマンス課題)を設定し、指導と評価を一体的に行っていますか。【小学校外国語活動担当教師】

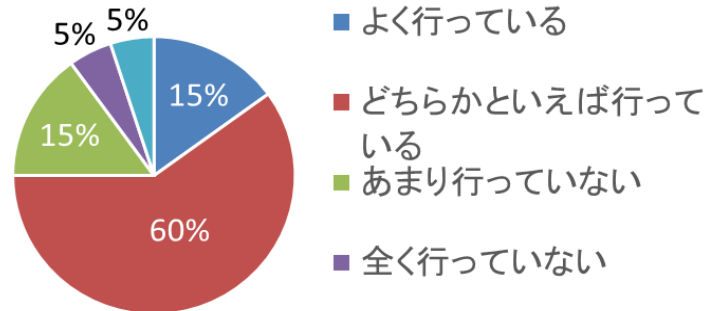


アンケート② (R4.1月実施)

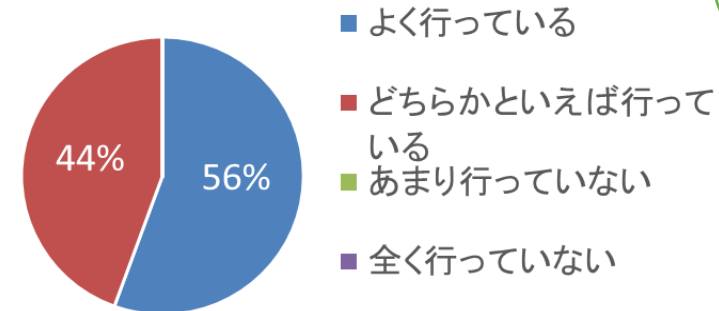
Challengeリストに基づいて、単元の終末に、実際の目的や場面、状況等に応じて英語を活用する課題(パフォーマンス課題)を設定し、指導と評価を一体的に行っていますか。【小学校外国語活動教員】



CAN-DOリストに基づいて、単元終末や複数単元後に、実際の目的や場面、状況等に応じて英語を活用する課題(パフォーマンス課題)を設定し、指導と評価を一体的に行っていますか。【小学校外国語科担当教師】



CAN-DOリストに基づいて、単元終末や複数単元後に、実際の目的や場面、状況等に応じて英語を活用する課題(パフォーマンス課題)を設定し、指導と評価を一体的に行っていますか。【小学校外国語科教員】



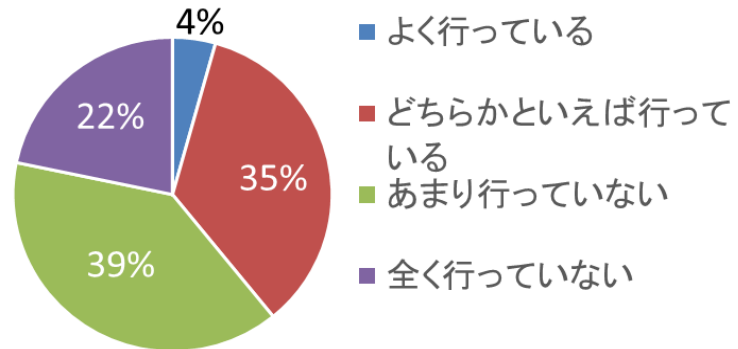
CAN-DOリスト、指導と評価の一体化に対する教師の意識は大幅にUp↑

研究指定校のアンケートより

[1] 英語担当教師(小) ④パフォーマンス評価について

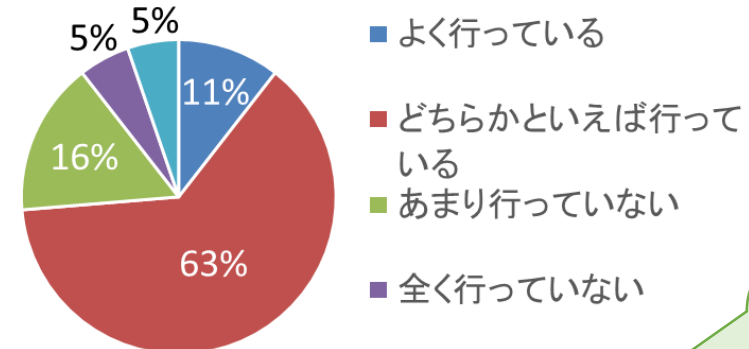
アンケート①(R3.5月実施)

児童やALTと評価基準表(ルーブリック)等を共有し、妥当性、信頼性あるパフォーマンス評価を行っていますか。【小学校外
国語活動担当教員】

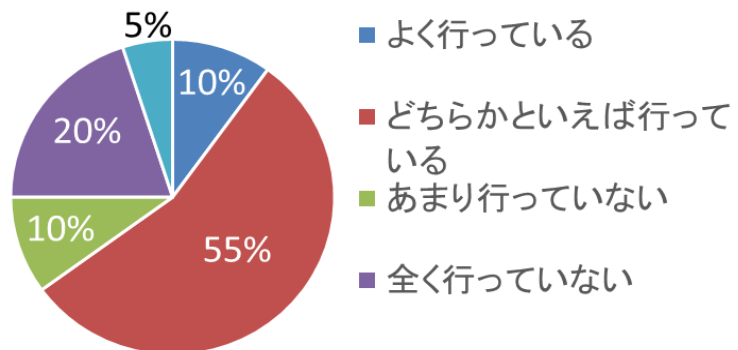


アンケート②(R4.1月実施)

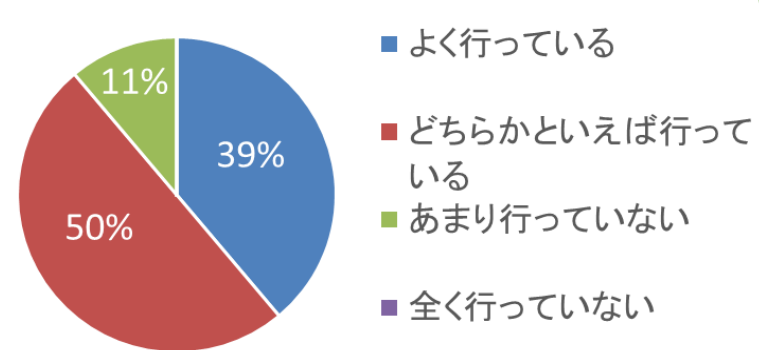
児童やALTと評価基準表(ルーブリック)等を共有し、妥当性、信頼性あるパフォーマンス評価を行っていますか。【小学校外
国語活動担当教員】



児童やALTと評価基準表(ルーブリック)等を共有し、妥当性、信頼性あるパフォーマンス評価を行っていますか。【小学校外
国語科担当教員】



児童やALTと評価基準表(ルーブリック)等を共有し、妥当性、信頼性あるパフォーマンス評価を行っていますか。【小学校外
国語科担当教員】

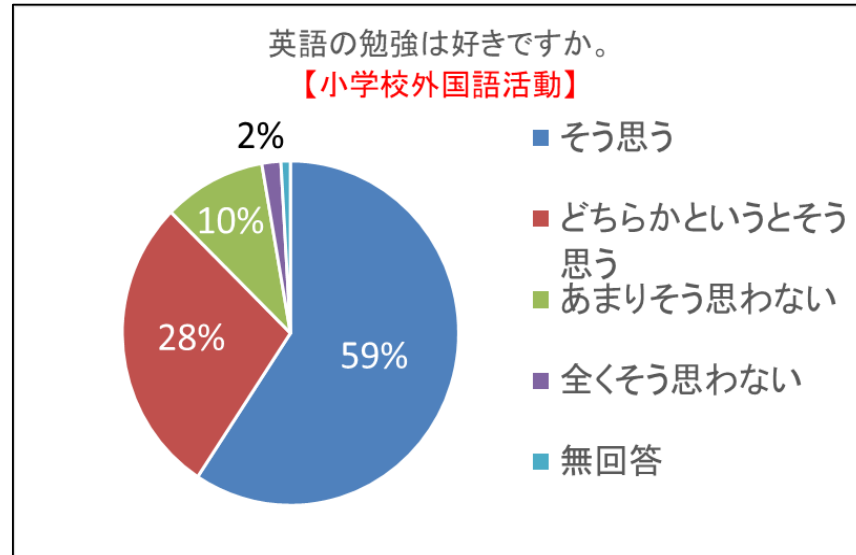


パフォーマンス評価に対する教師の意識は、大幅にUp↑

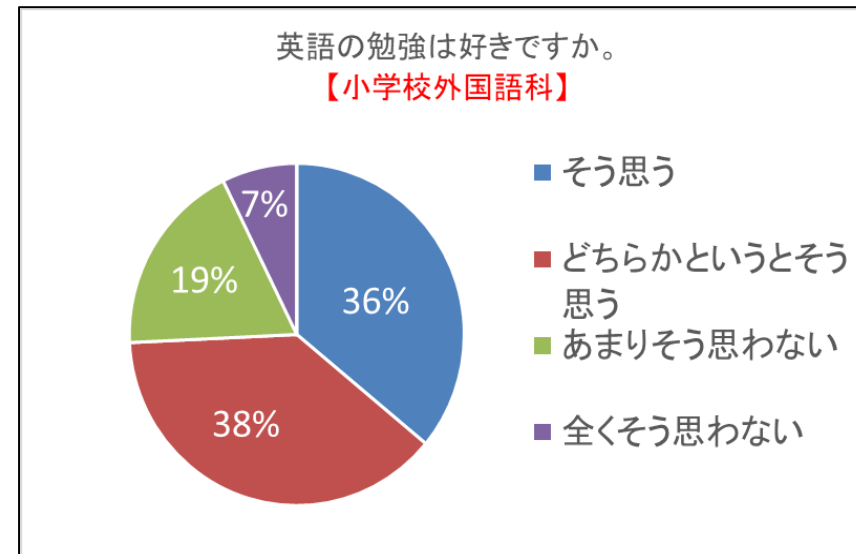
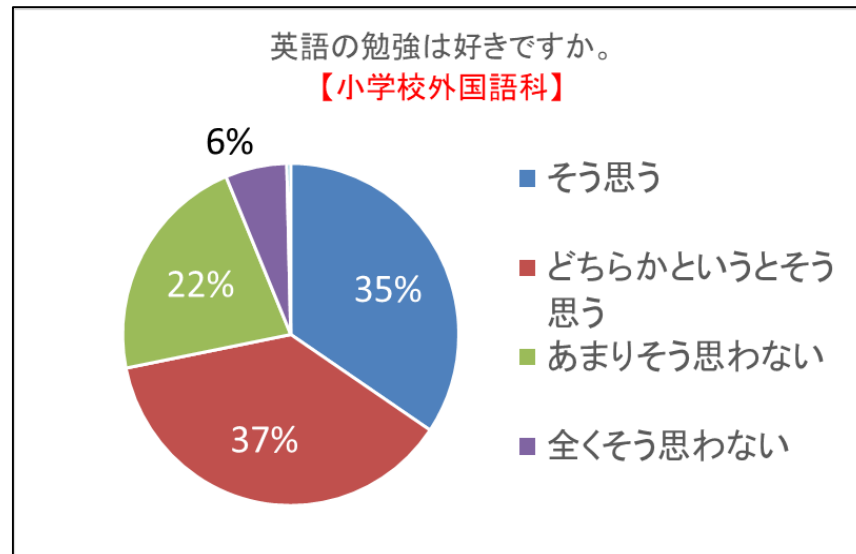
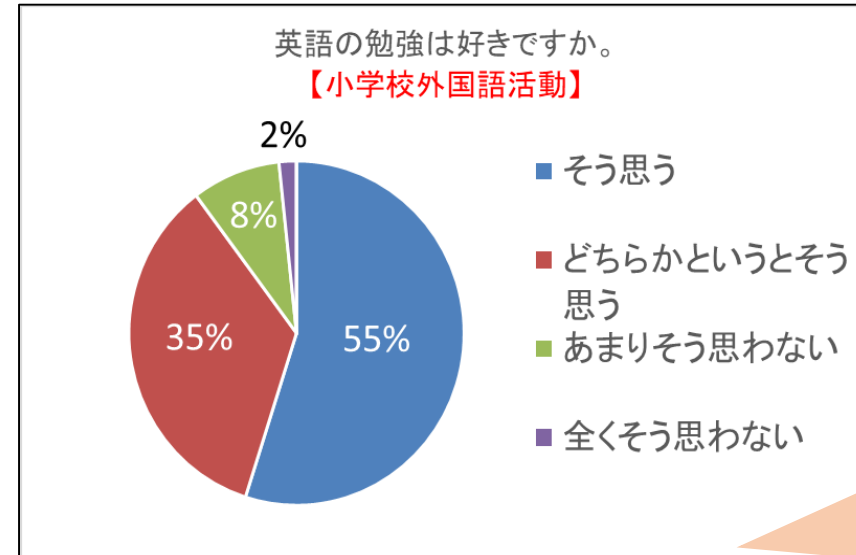
研究指定校のアンケートより

[2] 児童(小) ①英語の勉強は好きですか

アンケート①(R3.5月実施)



アンケート②(R4.1月実施)



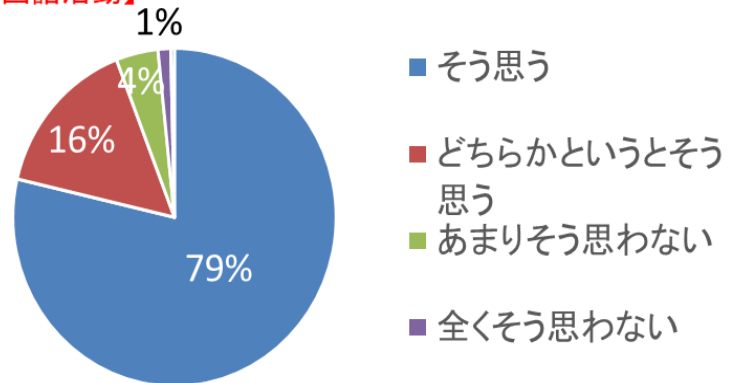
児童の状況は、
あまり変わらない。

研究指定校のアンケートより

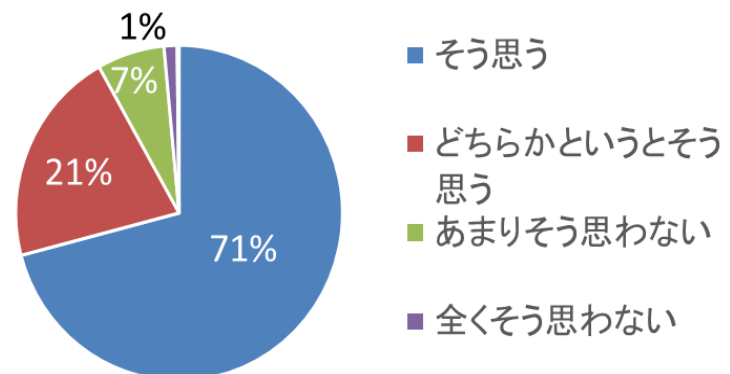
[2] 児童(小) ②やり取り・即興・言語活動について

アンケート① (R3.5月実施)

授業では、英語で自分のことや相手のことをたずね合う活動が行われていると思いますか。【小学校外国語活動】

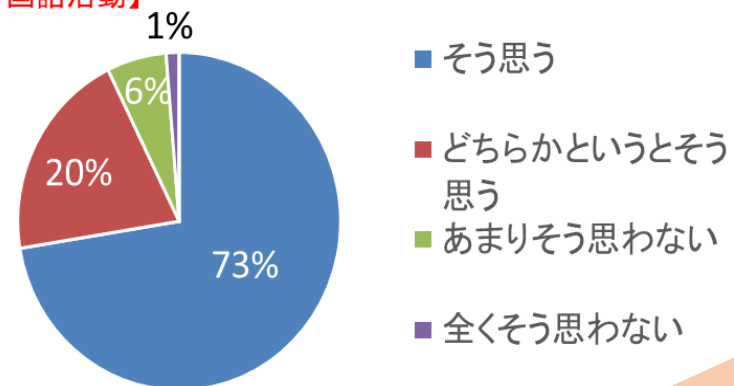


授業では、英語で自分の考えや気持ちなどを友達や先生と伝え合う活動が行われていると思いますか。【小学校外国語科】

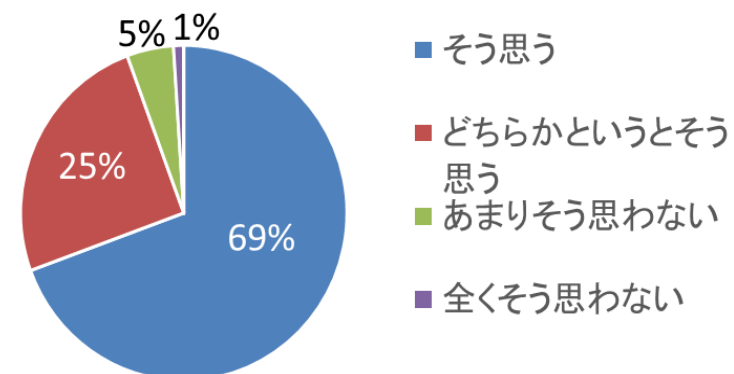


アンケート② (R4.1月実施)

授業では、英語で自分のことや相手のことをたずね合う活動が行われていると思いますか。【小学校外国語活動】



授業では、英語で自分の考えや気持ちなどを友達や先生と伝え合う活動が行われていると思いますか。【小学校外国語科】



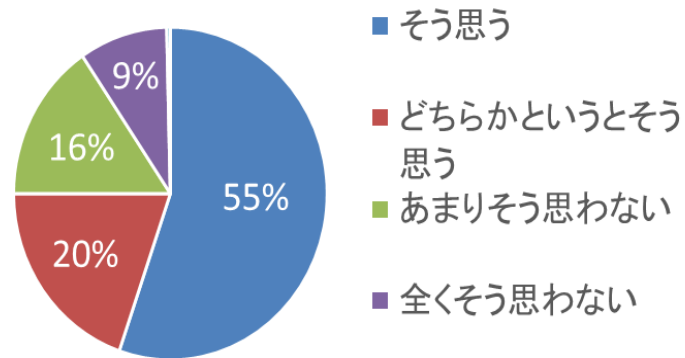
児童の状況は、あまり変わらない。

研究指定校のアンケートより

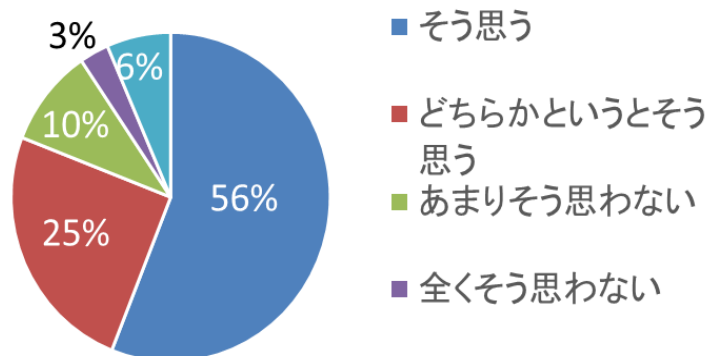
[2] 児童(小) ③CAN-DOリスト・指導と評価の一体化について

アンケート①(R3.5月実施)

単元の終わりに、授業で学んだことを使って、友達や先生と英語で話したり、自分のことを発表したりしていると思いますか。【小学校外国語活動】

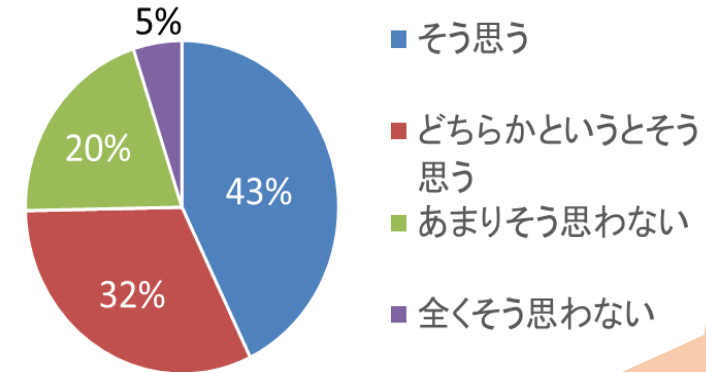


単元の終わりや学期末に、英語を使って話したり、発表したりするときに、授業で取り組んできたことが生かされていると思いますか。【小学校外国語科】

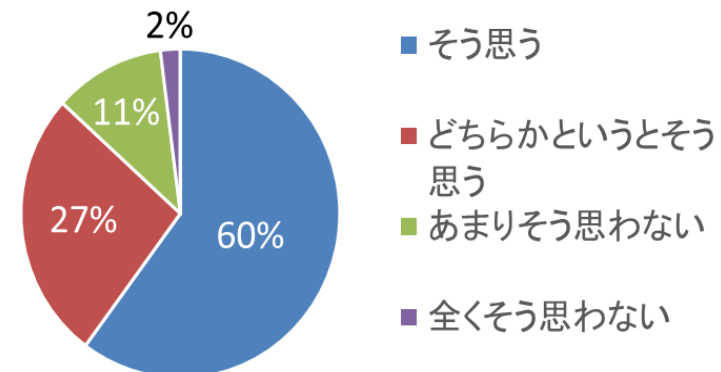


アンケート②(R4.1月実施)

単元の終わりに、授業で学んだことを使って、友達や先生と英語で話したり、自分のことを発表したりしていると思いますか。【小学校外国語活動】



単元の終わりや学期末に、英語を使って話したり、発表したりするときに、授業で取り組んできたことが生かされていると思いますか。【小学校外国語科】



児童の状況は、あまり変わらない。

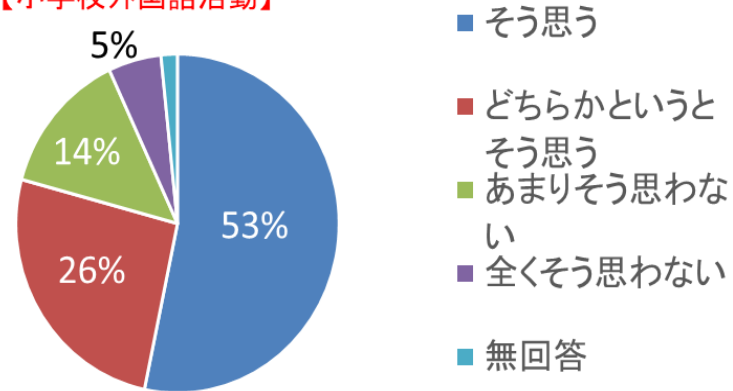
研究指定校のアンケートより

[2] 児童(小) ④パフォーマンス評価について

アンケート① (R3.5月実施)

自分が英語を使って何ができればよいのか、目ひょうがわかって、英語の学習をしていると思いますか。

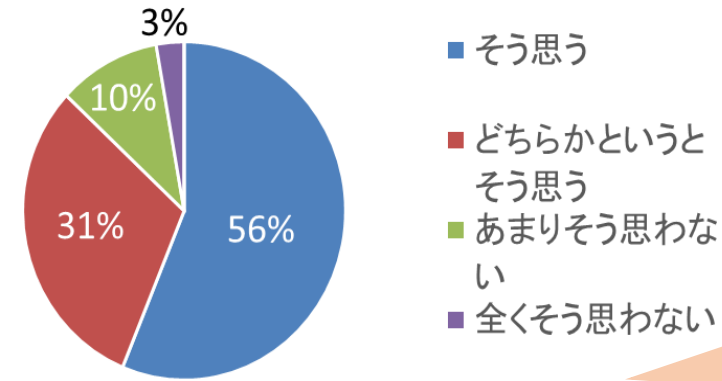
【小学校外国語活動】



アンケート② (R4.1月実施)

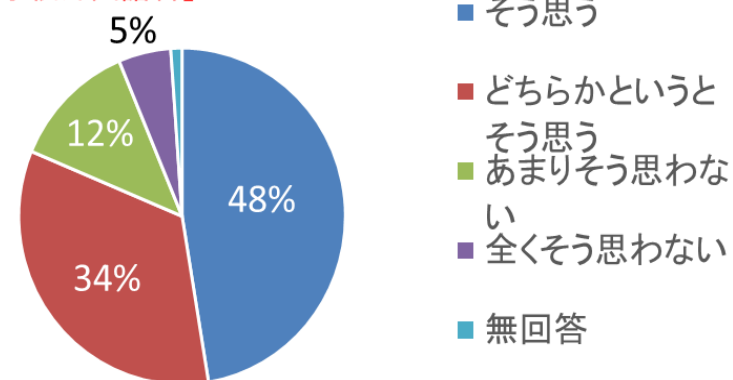
自分が英語を使って何ができればよいのか、目ひょうがわかって、英語の学習をしていると思いますか。

【小学校外国語活動】



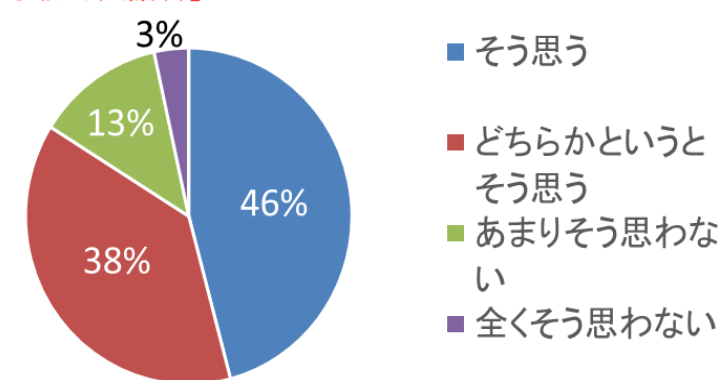
自分が英語を使って何ができればよいのか、目標を
理解して、英語の学習をしていると思いますか。【小

学校外国語科】



自分が英語を使って何ができればよいのか、目標を
理解して、英語の学習をしていると思いますか。【小

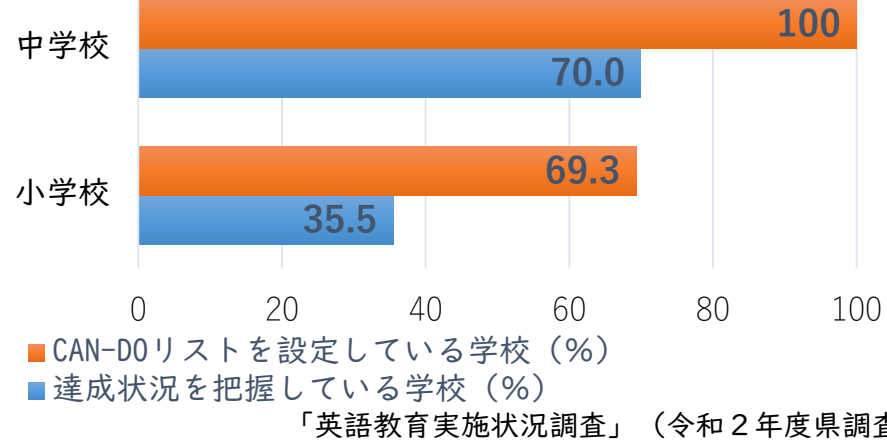
学校外国語科】



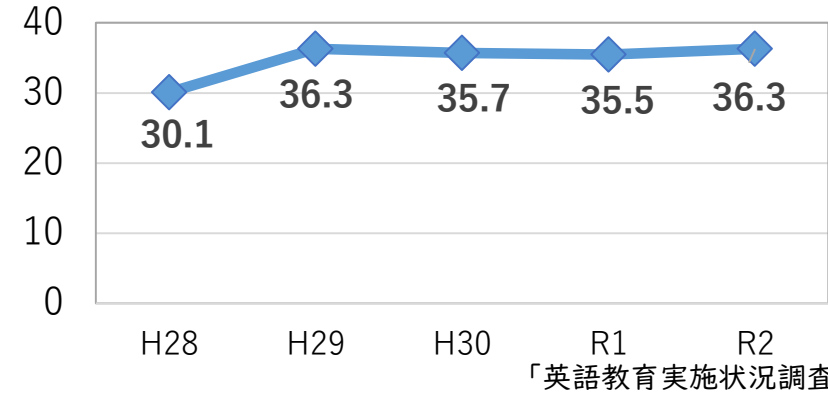
否定的な回答
が、若干減少。

山梨県の外国語教育

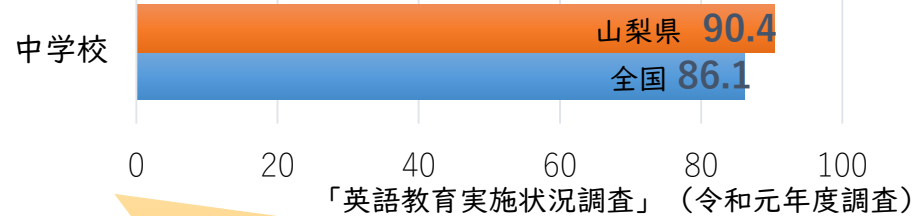
「CAN-DOリスト」の設定率が向上



中学生の英語力の状況

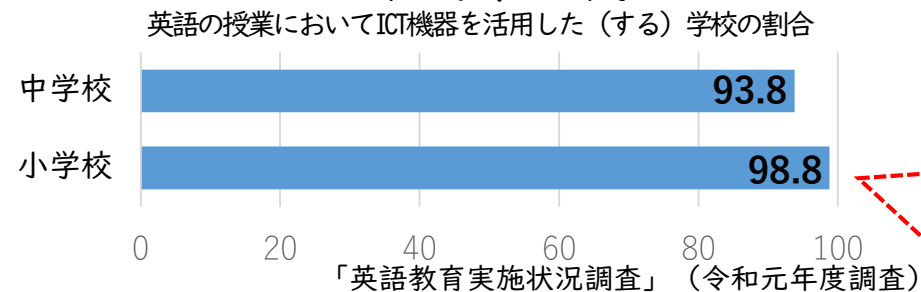


パフォーマンステストの実施率が高い



小学校においてもパフォーマンステストの実施率が高い。

ICTの活用率が高い



さらに外国語教育を充実させるために、

CAN-DOリストの活用

言語活動の充実

小中連携の推進



英語教育改善
プラン推進事業

<活用が進んでいる内容>

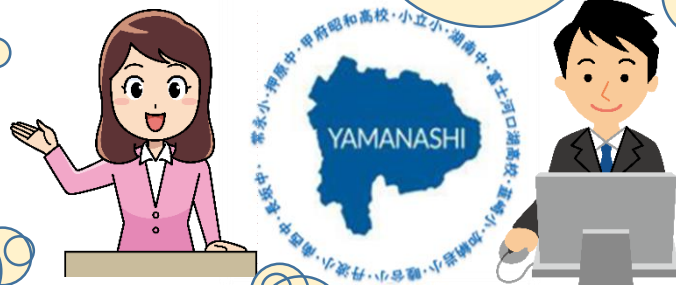
- ・ デジタル教材を活用した授業
- ・ 児童生徒が発話や発音を録画する活動
- ・ 書く活動 [中学校]

令和4年度は、全ての小中学校に学習者用デジタル教科書が提供されます！

教職員の授業力
向上につながっ
た。

学級担任と専科
教員の連携が進
んだ。

英語が好きな児
童が増えた。



校内に英語に関
する掲示物が増
えた。

児童が達成感を味わ
い、もっと英語を
使って見たい、知り
たいと思う授業造り
を目指したい。

指定校同士で
もっととつなが
りを持ちたい。

10 休憩後、全体会（小中高）となります。

一度、Zoomを退出し、全体会のZoom会議に再度お入りください。

全体会のURL：<https://zoom.us/j/93968405598>

ID：939 6840 5598

パスコード：20220224



全体会は、15：50～16：45を予定しています。